

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の学習成果と学位論文等審査基準の対応マップ

		卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の学習成果		
		1	2	3
学位論文審査基準	1	◎	○	○
	2	◎	◎	○
	3	○	◎	○
	4	○	◎	○
	5	○	○	◎
	6			

人文科学研究科史学専攻博士後期課程の学位論文を評価するためのルーブリック

	尺度5 (S) (特に優秀な成績)	尺度4 (A) (優秀な成績)	尺度3 (B) (要求を満たす成績)	尺度2 (C) (合格と認められる最低の成績)	尺度1 (D) (不合格)
研究課題の明確性及び先行研究を踏まえての的確性	先行研究の調査が広範・的確で、関連する領域についての研究を広く渉猟し、論議の今後の展開方向を先取りして新たな論点を提示している。	先行研究の調査が広範・的確で、関連する領域についての研究を広く渉猟し、論議の展開経緯に関する認識が的確で、適切な論点を指摘している。	先行研究の調査が広範・的確で、関連する領域についての研究を広く渉猟し、適切な論点を指摘している。	先行研究の調査が広範・的確で、論議の展開経緯を踏まえた適切な論点を指摘している。	先行研究の調査が不十分で、論議の展開経緯や、焦点になる論点の理解が適正でない。
課題を追求する上での方法論の適切性	先行研究の成果を良く認識して、既知の史資料に取り組むと共に、新たに発見・紹介された史資料の調査と説明にも積極的に取り組み、さらに、未開拓の史資料の発見・提供に努めている。	先行研究の成果を良く認識して、既知の史資料に取り組むと共に、新たに発見・紹介された史資料の調査と説明にも取り組み、それらの利活用について新たな知見を提示している。	先行研究の成果を良く認識して、既知の史資料に取り組んで、その利活用について新たな知見を提示している。	先行研究の成果を認識し、既知の史資料の調査に自主的に取り組んでいる。	先行研究の成果を良く認識しておらず、既知の史資料の調査にも十分な成果を挙げていない。
研究方法及び調査方法の妥当性	問題にする史料の含む解釈可能性を多角的に捉えて、適切な積読と的確・周到な史料操作により一義性のある解釈を合理的・整合的に示し、独創的で安定した歴史像を組み上げるための基礎として活用できる。	問題にする史料の含む解釈可能性を多角的に捉えて、適切な積読と的確・周到な史料操作により一義性のある解釈を合理的・整合的に示し、安定した歴史像に組み上げるための基礎として活用できる。	問題にする史料に対する適切な積読と的確な史料操作により、一義性のある解釈を合理的に示し、歴史像を組み上げるための基礎として活用できる。	問題にする史料に対する適切な積読と的確な史料操作を行い、説得力のある歴史像を組み上げるための基礎として活用できる。	問題にする史料に対する積読ないし史料操作に不適正があり、合理的に歴史像を組み上げることに成功できていない。
結論の妥当性	研究課題、先行研究、史資料調査、史資料解釈から結論が適切かつ整合的に導かれ、極めて一貫したものとなっているとともに、明解な展望も示されている。	研究課題、先行研究、史資料調査、史資料解釈から結論が適切かつ整合的に導かれ、極めて一貫したものとなっている。	研究課題、先行研究、史資料調査、史資料解釈から結論が適切かつ整合的に導かれ、一貫したものとなっている。	研究課題、先行研究、史資料調査、史資料解釈から結論が導かれているが、その一貫性において課題がある。	研究課題、先行研究、史資料調査、史資料解釈から結論が整合的に導かれていない。
研究の独創性と研究分野への貢献	複数の論点について独創性のある合理的・説得的な成果を得て、学界の研究水準を上げるとともに、体系性のある歴史像の提示に成功している。	独創性のある合理的・説得的な成果を得て、学界の研究水準を上げるとともに、体系性のある歴史像の提示に成功している。	独創性のある合理的・説得的な成果を得て、学界の研究水準を上げることに関与している。	合理的・説得的な成果を得て、学界の研究水準を上げることに関与している。	合理的・説得的な成果と認めることのできない瑕疵があり、ないしは、学界の研究の到達点を後退させるような内容になっている。
その他					